祝　　辞

社会福祉法人日本肢体不自由児協会
理事長　　遠　藤　　浩

第６８回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会鳥取大会の開催おめでとうございます。皆様におかれましては、肢体不自由教育推進に向け、日頃より献身的に取り組まれておられますことに深く敬意を表します。

ご新任の教頭先生もおられると思いますので、当協会と肢体不自由教育についてのかかわりについて、少し紹介させていただきます。

当協会は、社会福祉法人でありますが、当初から肢体不自由教育と深いかかわりを有していた長い歴史があります。創始者である高木憲次博士は、昭和の初めから肢体不自由児が社会で自立していくためには、「治療・教育・職能」の三位一体の上に成立するものであると考え、「肢体不自由児の療育」という概念を初めて提唱し、これを広く普及するために、行政・財界をはじめ、医療・教育・福祉・労働などの関係分野に強く働きかけ、昭和１７年には、我が国で初めての肢体不自由児施設「整肢療護園」を現在の板橋区小茂根の地に開設しました。

そして、昭和２０年代後半から３０年代前半にかけて、肢体不自由児施設と肢体不自由児養護学校の全県設置を目標に掲げ、「肢体不自由児に治療と教育を」をスローガンに、当初４校で発足した肢体不自由養護学校校長会（現在の全国特別支援学校肢体不自由教育校長会）と協力連携して、全県設置の実現に取り組みました。肢体不自由児施設は昭和３６年に、肢体不自由児養護学校は昭和４４年に、それぞれ全県設置が実現しました。また、当協会は、昭和の終わりごろまで、学習指導要領の解説書や肢体不自由教育関係の出版物、これらは出版部数が少ないため出版会社・印刷会社などが敬遠していたため、当協会で刊行していました。

このような当協会と肢体不自由教育の関係者・関係団体とのつながりは、現在まで連綿と継続しています。

現在も文部科学省をはじめ全国特別支援学校肢体不自由教育校長会や全国肢体不自由特別支援学校ＰＴＡ連合会などから当協会主催の美術展／デジタル写真展へ後援をしていただくなど様々な連携を図りながら、手足の不自由な子どもたちへの支援を行っています。今年度は１２月に美術展／デジタル写真展を開催すべく準備中です。特別支援学校の子どもたちから多くの作品が寄せられることを楽しみにしておりますので、応募勧奨のほどお願いできましたら幸いです。

また、今年度も全国特別支援学校肢体不自由教育校長会との共催で「ミラコン 2025 第 8 回プレゼンカップ全国大会」を開催します。当協会は、ファイナルステージの会場提供や機関誌「はげみ」に、ミラコン特集号を刊行するなどの役割を担います。

こども家庭庁中心にこども施策が総合的に推進されつつありますが、当協会としても障害のある子どもたちが心身ともに健やかに育成され、自立した生活を営むことができるように皆様とともに全力を傾注してまいります。

鳥取大会が意義のある大会となりますことを祈念申し上げますとともに、貴協議会の今後益々のご発展と、皆様の益々のご健勝並びにご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。